

中国経済の動学的効率性の検証とその含意について

梶谷 懐

[報告要旨]

本報告の目的は、マクロ経済学の重要な概念である「動学的効率性」を手がかりに、現代中国においてみられる過剰資本蓄積、不十分な社会保障、資産価格の高騰、などの現象を統合的に考察することにある。具体的には、ある経済の動学的効率性に関する、エイベル＝マンキュー＝サマーズ＝ゼックハウザーの基準（AMS Z 基準）を、既存研究とは異なる方法で中国経済に適用し、中国経済全体、経済部門別、地域別という 3 つのケースについて、動学的効率性の検討を行う。さらには、分析結果を踏まえ、特に近年の資産バブルの発生との関連においてその現実的な意味、および今後の政策インプリケーションについて考察する。これらの分析の結果、中国経済は 1990 年代から 2000 年代にかけて、政府部門の積極的な投資活動を主な要因とする資本過剰蓄積の傾向を持ちながら経済成長を続けてきたこと、地域別では内陸部、特に西部地区においてその傾向が顕著であったこと、そして特に 2009－2010 年にはリーマンショック後の景気刺激策の影響により、資本の過剰蓄積が全国レベルで深刻化していたこと、などが示唆される。